

平成18年の刺し網によるニゴロブナの漁獲状況

酒井明久

◆背景・目的

資源管理型漁業を推進しているニゴロブナの漁獲実態を把握するため、主要な漁法である刺し網漁業を対象に漁獲量や漁獲サイズ、年齢組成等を調査した。

◆成果の内容・特徴

- 平成18年2-5月に延べ10人の漁業者を対象に漁獲量を調査したところ、一人当たり操業当たり漁獲量は、8.0-24.8kgであった(図1)。
- 1-4月に琵琶湖栽培漁業センターと共同で収集した919尾の漁獲魚のサイズは、すべてが全長18cm以上であり、全長22cm以上は70%を占めた(図2)。
- 鱗による年齢査定から得た漁獲魚の年齢組成は、1歳魚45.7%、2歳魚51.0%で両者で全体の96.7%を占めた(表1)。

◆成果の活用・留意点

- 資源回復を目的として、平成19年4月1日から漁獲制限サイズが全長22cmに引き上げられる(委員会指示)。資源管理の効果を把握するためには、調査の継続が必要である。

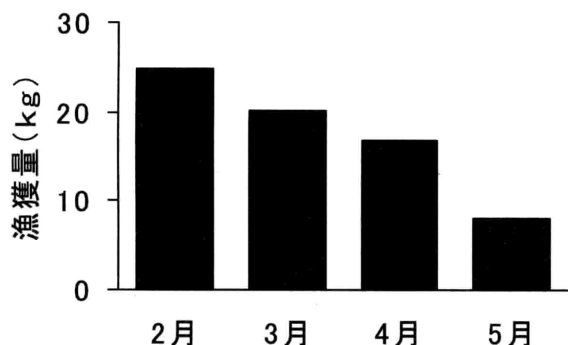


図1 刺し網漁業によるニゴロブナ漁獲量の月別変化。(一人当たり操業当たり漁獲量)

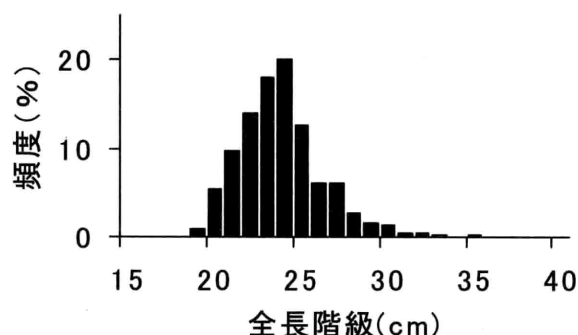


図2 刺し網によるニゴロブナの漁獲サイズ。

表1 平成18年1-4月に刺し網で漁獲されたニゴロブナの年齢組成と平均全長

年齢	雌			雄			合計	
	個体数	(%)	全長±標準偏差(cm)	個体数	(%)	全長±標準偏差(cm)	個体数	(%)
1	235	43.1	23.3 ± 2.13	185	49.5	21.9 ± 1.78	420	45.7
2	291	53.4	24.4 ± 2.36	178	47.6	22.9 ± 1.76	469	51.0
3	16	2.9	29.7 ± 3.82	7	1.9	24.2 ± 2.10	23	2.5
4	1	0.2	23.4 ± -				1	0.1
5	1	0.2	39.0 ± -				1	0.1
不明	1	0.2	29.2 ± -	4	1.1	21.3 ± 1.68	5	0.5
合計	545	100.0		374	100.0		919	100.0